第 2014-29 号

恵みと真理のニュース

2014 年 7 月の三次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

[証]

今日も生きて行なわれる神様、豊かな救いの恵みを与えて下さる神様を賛美します。

私は結婚して長い間酷いうつ病にかかっていました。旦那と性格の差と舅姑の関係の様々な問題で対人恐怖症にもなり人を恐がり人と会うことさえ大変でした。経済的にも厳しくなりその苦労は耐えられないくらいで死ぬ事も考えました。
そうするうちにある日、珍しい夢をみました。きれいな服を着ているおばあさんが私をみて早く教会に行きなさいと言われたのです。一ヶ月が過ぎ再びそのおばあさんが夢で現れ十字架をみせながら十字架だけがあなたの生きる道であると言われました。それで私は会う人に十字架を貸してくださいと願いましたが誰も私に十字架を貸してくれなかったのです。このような夢を繰返しながらみて急にお腹が痛くなりました。開け方夢から起きて旦那にこの珍しい夢を聞かせました。しかし旦那は夢の話はただ夢だと早く寝なさいと言いました。また夢路に入ったが、今回もまた同じアーパトに住むおばあさんが首に十字架をかけている夢をみました。急いでおばあさんに付いて行きその家の門を叩きながら目が覚めました。恐くて普通の夢ではないと思い私を伝道した区域長に電話をして私を教会に連れて行ってくださいと願いました。
それで、イエス様を私の救い主として受け入れ、教会に通うようになりました。体と心が弱くなったせいかその後もよく夢をみました。その時ごとに区域長に連絡すると家まで走って来られ祈ってくださいました。祈って下さるとすぐ心が平安になり新しい力が湧きました。
私は一生懸命教会に通い神様に仕えると旦那の迫害が始まりました。旦那の家庭は仏教を信じる家庭で必然的に衝突が起こりました。ある日は教会に行く準備をしているわたしに旦那は私にイエスか旦那かを選択するように強要しました。教会に通いながらうつ病も治癒され救いの確信もでき、礼拝に参席すると御言葉と聖霊の恵みで神霊な幸せを味わった私は当然“イエス様”だと答えました。いつも旦那に従順した私がイエス様に対する信仰と愛を大胆に告白すると旦那は大きく驚きました。そうすると離婚もするとためらわずに話しました。
そのように大変な信仰生活をしている私の姿を隣りで見たある方は教会と会わないのではないか？そのくらい大変だと教会をやめたほうが良いのではないかと言われるほどでした。しかしどんな迫害と脅かしを受けても神様に対する信仰と愛をやめることはできませんでした。
ある夏の夜、悩みながら公園で散歩する時、見知らぬ二人の男の車で拉致される危機もありましたが、神様の権能の手を出してくださり安全に私を守ってくださいました。大変で落胆し倒れそうな時に祈って御言葉を黙想すると神様は新しい力を下さり、難関にぶつかったら神様は知恵を与えて下さり、善を行なってくださり信仰の道で倒れないようにしてくださいました。
2000 年に私は大きい手術を受けました。重い病気になり酷く下血をして体に血が足りないといわれました。手術の日を決めましたが不幸が重なって心臓にも大きい異常が発見され病院で手術する事ができないけれどもすぐ入院するように勧めました。とても危険な状態でした。本当に恐くて怖れました。“神様、私どうすればいいですか？”神様に祈るしかできませんでした。神様は私に主はあなたを見守る方／あなたを覆う陰、あなたの右にいます方。 昼、太陽はあなたを撃つことがなく／夜、月もあなたを撃つことがない。 主がすべての災いを遠ざけて／あなたを見守り／あなたの魂を見守ってくださるように。（詩篇１２１：５～７）という御言葉で大きく慰めと力をくださいました。夜に再び“悩むな、主があなたを守る。”“わたしの心が落胆し苦しんでいるとき、主が私に来られ慰めてくださる”賛美を歌いながら祈りして神様に私の生死を委ねて手術室に入りました。神様の恵みで手術を受け回復室からすぐ一般病室に移りました。体が遅く回復され痛みが酷い時には子供が親にねだるように神様に祈ると神様はすぐ愛の手で触ってくださる事を感じることができました。しかし、手術を受けて７年間、弱くなった心臓をそのまま放置したように生きていました。すると夜になる呼吸が早くなり、昼にも大変な仕事をすると息苦しくなりました。
夜中に急いで病院に行くと症状でみれば心筋梗塞のようだと言われ、１５日後に超音波検査をしてみようと言われました。その時からまた熱心に神様にお祈りしました。祈ってまもなく朝少し眠ったのですが、夢に大きい岩くらいの火の玉が遠い所からきてびっくりして夢から起きました。心臓に手を当ててみると普通と違って熱かったです。
約束の日になって様々な検査を受けた後医師が結果を見てびっくりしました。“最近他の病院に通いましたか？何か薬を飲みましたか？”私の心臓に異常がないことに理解ができないといわれました。ハレルヤ！
神様が私の心臓病もきれいに治してくださいました。旦那も病気にかかって神様の恵みを体験して二つの手を上げながら神様の前にでました。旦那にも急に我慢できない痛みがおこり病院に行くと病名が分からないので他の病院に行ってみなさいと言われました。大きい病院にも行きましたがやはり分からないと答えは一つでした。仕方なく家に帰って来て毎日が苦痛でした。私は神様に旦那の病気を治してくださり神様が生きておられる事を体験させてくださいと願い求めました。
そのように一ヶ月が過ぎて旦那が日本に出張に行くことになり、出発する前に病院に行って MRI 検査を受けました。検査結果は腹膜炎でした。更に一ヶ月前に盲腸が破れて超音波の検査をした病院でこれを発見してなかったのです。
盲腸が破れて小腸の下にあったからそれを発見できなかったのだと海外トピックだとしました。神様の奇跡がなかったら旦那はもう命を失ったといわれました。
旦那が入院したときに当会長牧師と奥さんが病院に来てくださいました。旦那と私を慰めてくださり、旦那に信仰と希望の御言葉を話してくださり切に祈ってくださいました。旦那は牧師の訪問の以後から手術を良く受けて早く健康が回復し退院できました。この事から旦那も神様に栄光を捧げイエス様を信じるようになりました。
今も旦那はその時、当会長牧師が祈ってくださる姿が忘れられないし牧師を見るたびに感謝していると言います。このような恵みを体験して私達が福音を述べ伝え多くの伝道の実りを得ることが出来ました。ハレルヤ！
この事意外にも字では表現できないほど神様に与えられた恵みが多いです。
死線のたびに何回も私を救ってくださいました。今まで私達に神の癒しの恵みと豊かな救いの恵みを与えてくださった神様に賛美をします。私に勧士と首区域長の職分を任せてくださり、弱い私を知っている神様は様々な方法で助けてくださり導いてくださる主を賛美します。神様は生きておられます。神様に感謝し愛します。

[信仰コラム]

疎外感と孤独感に対する解決策

恐れてはならない、わたしはあなたと共にいる。驚いてはならない、わたしはあなたの神である。わたしはあなたを強くし、あなたを助け、わが勝利の右の手をもって、あなたをささえる。 （イザヤ書　４１：１０）

天災地変、戦争、飢え、病気、各種の事故は人間の生存を危うくするものです。人間はこのような問題を克服して解決するために絶えず努力してきました。しかし、こうしたことのほかにも、人間が乗り越えなければならない問題が多いです。その中に疎外感と孤独という問題があります。″孤独は、死に至る病″と言った哲学者がいます。実際に孤独は人間の生活を危機に追いこむ非常に深刻な問題です。周りの人からいじめを受ける時は誰でも疎外感を感じて孤独になりがちです。自分を理解してくれる人がないとか、味方になってくれる人がないと判断されれば、深刻な状態に至ることになります。このような疎外感と孤独に対する解決策をご覧ください。
第一は、利己主義を整理して調節しなければなりません。
極度の利己的な考え方を持って行動する人が好きな人はいません。持ったことが豊かでありながら、過度にけちと、自分を孤独の成案に閉じ込めることになってしまいます。あまり持ったことがないが利己的の思いでいっぱいの人もいます。エジプトで自由を得て広野を行進したイスラエルの子孫たちも神様に捨てられた理由の一つは神様に感謝することを知らない利己主義です。神様がくれた恩を当然だと考えたり、無心に扱った反面、に不便でないことを数えて恨み不平の種にした結果、彼らは神様に見捨てられました。彼らのうち、神様がいらっしゃるのにもかかわらず、まるでいないように行動したが、結局は孤独の民になって荒野で放浪して死にました。
利己主義者は、自分は他の人に施すない、他の人には要求が多いです。自分は施すことがないためだと自己正当化の口実で武装します。しかし、人がもつ価値あるのは金や物だけではありません。親切な言動と礼儀正しい言動は金で買えない価値です。自分を犠牲にして人を利する利他主義として生きていく人には疎外感や孤独感が滞在できません。心から感謝の気持ちを表現しようとする人たちがいつも周りにいることになって、他人のために犠牲しながら生きていくそのものがやり甲斐を感じて楽しいからです。使徒パウロは一人で東奔西走福音を伝え、何回も迫害に直面しました。しかし、彼は他の人の有益を向けて全心全力したために疎外感や孤独感で苦しがったことがありません。神が比喩でおっしゃった放蕩息子の話で利己主義者の終着駅がどこかを見るようになります。
第二は、完全を要求してはいけません。
完全無欠な人はないという事実を知るためには他の人を検討するものなく、自分を見ると、なります。対人関係で、できるだけ寛大な心を持つべきです。完全を要求する人は総じて性格が薄くして理解の心が不足します。どうしようもない関係や状況がないなら、世知辛い人は忌避対象になります。理解が不足し、ともすれば怒る性癖を持った人は、自分が孤独の城を積むようになります。完全を要求する人はうるさ型になります。人たちが一緒にいることを嫌い、忌避しているため、疎外されて孤独になる人は人を咎めるのではなく、自分の性格と習慣を果敢に直さなければなりません。
第三は、″神様、私がどう行動しましょうか。″と尋ねるべきです。
ダメセック途上で復活した神様に会ったパウロは″神様、私が何をしなければなりませんか?″と質問しました。パウロのこの質問は立派な手本です。他の人にいたずらに嫌われたり、いじめを受ける時、自分がいかに身をしょすべきかを神様に尋ねなければなりません。
神様の返事は聖書に記録された言葉を通じて与えられます。たまには神様の言葉に合致する考えや願いを聖霊が気づかせてくれます。私たちに何の出来事に遭遇でも″神様、私がどうしましょうか?″と問うならば、決して疎外感や孤独感を持つことがないだろうです。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

イエス様の初臨と再臨

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

イエスキリストは父の神様のみ旨を従って世の中へいらっしゃいました．そして将来またいらっしゃいます．これを手短に形容してはイエス様の初臨とイエス様の再臨だと言います．イエスキリストが誰で初臨と再臨がなぜ，いつ，どんなに起きることなのかを分かる知識くらい珍しくて貴重なことはないです．この知識は比べるところなしに貴重で美しいから私たちが一生を通じて探求するようになります．分かれば分かるほどその神秘さと驚きによって喜びと感謝があふれるようになります．

先に、イエス様の初臨に対してよく見ます．

人類の先祖アダムは神様の命令を逆ったので罪人になりました．アダムが罪人なのでアダムの子孫は例外なしに罪人で生まれます．しかし神様はこの問題に対する解決策を予備なさいました．これを “あがないの恵み”という解決策で罪のない人が罪人の罪を代わりに担当して刑罰を受けるようにするのです．アダムの子孫で生まれるすべての人が罪人なので罪人をあがないする資格を持った人がいないです．ところで神様がその対策を立てました．聖父の神様が罪人をあがないする仕事のために聖子の神様を世の中に送りました．聖書に記録されるのを“神様が世をこのように愛してイエスキリストをくださった”と言ったし “神様のイエスキリストが童貞女の身に聖霊に孕胎されて人の身を着てこの世の中へいらっしゃった”と言いました．そして罪がないイエス様が罪人たちの罪を代わりに担当してあがないするようになったのです．
イエス様は聖父の神様が決めた時に十字架に釘つけられ血を流れて死んで葬られてから三日ぶりに死亡の権勢を勝って復活しました．これによって誰でもイエスキリストを救主に信じて迎接すれば罪から赦して義のあるようになって永生を得るようになります．聖書ローマ人への手紙にはこんなに記録されました．**“もし、ひとりの罪過によって、そのひとりをとおして死が支配するに至ったとすれば、まして、あふれるばかりの恵みと義の賜物とを受けている者たちは、ひとりのイエス・キリストをとおし、いのちにあって、さらに力強く支配するはずではないか。このようなわけで、ひとりの罪過によってすべての人が罪に定められたように、ひとりの義なる行為によって、いのちを得させる義がすべての人に及ぶのである。”（ローマ人への手紙,5:17,18）**．アダムの犯罪によってすべての人が罪人になったことはまことに悲しくて歎息する仕事です．ところでイエスキリストによって彼を信じるすべての人が義人になることはまことに驚くべきで感激的な事です．キリストが初臨なさった目的は罪人の罪を代わりに担当してあがないするためなのです．イエス様はあがないする事を果して昇天なさいました．

次は、イエス様の再臨に対してよく見ます．

イエス様の初臨よりイエス様の再臨に関する予言が聖書にずっとたくさん記録されています．イエス様は自分が再臨することに対してたくさんおっしゃいました．キリストが再臨なさる目的が聖書に明らかに啓示されています．① 聖徒たちを復活するようになさいます．② 世の中を審判なさいます．③ サタンを処罰します．④ 聖徒たちが働いたとおり賞をあたえる．⑤ 新しい天と新しい地そして新しいエルサレム都が渡来するようにして聖徒たちがその所で永遠に住むようになさいます．そうするから聖徒たちはイエス様の再臨を切に慕って待ちこがれます．同時にイエス様の再臨の時期と徴兆が分かろうとします．
イエスキリストがエルサレム聖殿に入って教える時に書記官とバリサイ人たちを向けて咎めておっしゃいました．**“ああ、エルサレム、エルサレム、預言者たちを殺し、おまえにつかわされた人たちを石で打ち殺す者よ。ちょうど、めんどりが翼の下にそのひなを集めるように、わたしはおまえの子らを幾たび集めようとしたことであろう。それだのに、おまえたちは応じようとしなかった。見よ、おまえたちの家は見捨てられてしまう。”（マタイによる福音書，23:37,38）**．弟子たちはエルサレム聖殿が徹底的に破壊されるとなさったイエス様のお話に衝撃を受けてイエス様に質問しました．**“「どうぞお話しください。いつ、そんなことが起るのでしょうか。あなたがまたおいでになる時や、世の終りには、どんな前兆がありますか」。”**
キリストが次のように答えました．**“また、戦争と戦争のうわさとを聞くであろう。注意していなさい、あわててはいけない。それは起らねばならないが、まだ終りではない。民は民に、国は国に敵対して立ち上がるであろう。またあちこちに、ききんが起り、また地震があるであろう。しかし、すべてこれらは産みの苦しみの初めである。”（マタイによる福音書，24:6-8）**．民族と民族の間の紛争あるいは同じな共食いの戦争そして国家の間の戦争特に世界大戦のように多くの国々が同盟して連合して対敵して争う事が起こることを示します．またあちこちに飢饉と地震があると言いました．アメリカ地質調査所(USGS)で発表した資料によると 1978 年から 2011 年まで規模 5.0 以上地震が年平均 1,638 回発生しました．ところで 2012 年には総 1,666 回でした．地震が起きる頻度と被害の規模がますますもっと多くなっています．
キリストが続いておっしゃいました．**“そのとき人々は、あなたがたを苦しみにあわせ、また殺すであろう。またあなたがたは、わたしの名のゆえにすべての民に憎まれるであろう。そのとき、多くの人がつまずき、また互に裏切り、憎み合うであろう。
また多くのにせ預言者が起って、多くの人を惑わすであろう。また不法がはびこるので、多くの人の愛が冷えるであろう。”（マタイによる福音書 24:9-12）**．そしておっしゃるのを **“そしてこの御国の福音は、すべての民に対してあかしをするために、全世界に宣べ伝えられるであろう。そしてそれから最後が来るのである。”（マタイによる福音書 24:14）** しました．
旧約聖書ダニエル書 12 章 4 節に記録されるのを **“ダニエルよ、あなたは終りの時までこの言葉を秘し、この書を封じておきなさい。多くの者は、あちこちと探り調べ、そして知識が増すでしょう」。”** しました．
“多くの人が早く往き来して知識が加えるようになること”が現実になる時である封函したことが開かれたことでこの時が最後の時です．ダニエル時代に一番早い交通は馬や馬車でした．その時知識の伝達のために使われた手段は羊皮紙でした．その頃人々は今日の交通である自動車，高速列車，飛行機が想像もできなかったです．情報を交換して保存する最尖端通信手段であるラジオ，テレビ，携帯電話，コンピューターは夢にも見られなかったです．今日の最尖端の交通、通信、情報交換手段たちは 100 年前だけでも想像することができなかったです．だから今日は封函したことが封切られる最後の時です．

これから結論を結びます．

イエスキリストが不意した裁判官にしつこく訴えて願いを遂げたやもめに関する話をなさった後こんなに付衍しました．**“このやもめがわたしに面倒をかけるから、彼女のためになる裁判をしてやろう。そうしたら、絶えずやってきてわたしを悩ますことがなくなるだろう』」。そこで主は言われた、「この不義な裁判官の言っていることを聞いたか。まして神は、日夜叫び求める選民のために、正しいさばきをしてくださらずに長い間そのままにしておかれることがあろうか。 あなたがたに言っておくが、神はすみやかにさばいてくださるであろう。しかし、人の子が来るとき、地上に信仰が見られるであろうか」。”（ルカによる福音書，18:５～8）**というお話で済ましました．イエス様の再臨が近くなるほど知識が多くなって科学技術がおびただしく発展するでしょう．人々は自慢するはずで人本主義の思想がはびこるようになるでしょう．これと比例して祈祷は一つの空虚な意識と形式に過ぎないのに取り扱いされて信仰生活の飾りや附属物で思うようになるでしょう．人間の知識と技術にひかれて圧倒された信仰は窒息するようになるとか形式的な命脈を維持するようになるでしょう．歴史の終末は両面性を持っています．不信者には悲劇的な終末であり，信者には窮極的所望の成就です．人類歴史はイエスキリストの初臨と再臨という二つの事件に係わっています．
イエスキリストが親しくおっしゃるのを **“人の子が来るとき、地上に信仰が見られるであろうか**?” しました．イエスキリストが再臨なさる時にはこの世の中で基督教会や教人たちを捜してみるのが大変だろうというお話でしょうか? そうではないです．むしろ神様の再臨の近いほど福音は世界中すべての民族に伝えるでしょう．それによって教会数は増えてキリスチャンの数が増加されるでしょう．**“人の子が来るとき、地上に信仰が見られるであろうか”** というお話は名目上の信者ではない真実の信者，真正なキリスチャンが多くないことを意味します．教会という名称を持っても聖書のどおり信仰を伝えない教会は教会ではないです．信者という名称を持っても聖書のどおりの信仰を持たない信者は信者ではないです．彼の信仰がどんな信仰なのかとことは決定的に重要です．聖書に記録されたことをそのまま受け入れる信仰でなければ似以非です．神様が再臨なさる直前に世の中に教会は多くてもまことの教会が少なくて，信者は多くてもまことの信者が珍しいという意味です．私たちを覚るようにするお話です．警鐘を鳴らすお話です．

聖徒の皆さんに質問します．初臨なさって私たちの罪をあがないしたイエス様を救主で信じますか 聖徒たちを復活するようになさって世の中を審判なさろうとイエスキリストが再臨なさることを信じますか アーメンで肯定的に回答する皆さんはまったく幸いである人々です．まことによく暮らす人々です．